

●自然や伝承楽しめる

高原の地名は、高天原の略称とも伝えられる。南九州最大の観音信仰の霊山である高千穂峰は、神話世界の象徴ともなっており、天孫ニニギノミコトの降臨地とされる。今でも頂上にある天逆鋒（あまのさかほこ）に祈りをささげる人が後を絶たない。

その北東斜面に、杉に囲まれて鎮座するのが狭野神社。以前は狭野大権現といい、霧島六所権現の一社で、霧島ゆかりの神々に加え、カムヤマトイワレヒコノミコト（神武天皇）と吾平津（あひらつ）姫を祭る。「三國名勝図会」には「狭野の地は、神武天皇降誕の靈蹟（れいせき）なり、因て当社を創建ありしといふ」とある。狭野の地名も天皇の幼名を狭野尊と称したことが由来。社伝だと第五代孝昭天皇時代の創建という。何回も噴火に遭ったが、そのたびに再興したとの記録が残る。



皇子原公園の神武の館。神話の世界を再現する

付近には、神話と伝承の町にふさわしい地名、史跡が残る。皇子原、皇子川原、皇子滝、産場石（うべし）、祓原、祓川、赤池、血捨木（ちしやのき）。いずれも神武天皇降誕の伝承から付けられ、ロマンにあふれる。皇子原神社は天皇が生まれたとき、産屋を設けた場所とされ、産場石が二つ残る。噴火で他の石は変色したのに、この石だけは元のままで、今でも神石として祭られている。

高千穂峰の山ろくに広がる「神武の里・皇子原公園」は町の中心・西麓から約六^{キロ}。心行くまで自然や伝承を楽しめる。森林浴遊歩道や自然溪流釣り場、野鳥の声を聞きながらの古墳群や古代住居の模型見学。園内には「神武の館」も設けられ、神話の里にふさわしく立体像で日本神話を解説。このほか町出土の遺物の展示、視聴覚室も整備され、二階の展望所からは高原

の町並みが一望できる。

さらに、昔のわらぶき民家を再現した「民俗体験資料館」は戦前の庶民の暮らしが学べ、宿泊してスローフードを味わうこともできる。バンガローも十五棟ある。あずまやに休息し、遠く万葉期の切ない恋心を味わうのもよい。「万葉集」に収められている狭野弟上娘子（さのおとがみのおとめ）の詠んだ一首が歌碑として立つ。

君が行く道のながてをくりたたね焼きほろぼ
さむ天の火もがも

町内には温泉が多く、健康を看板にする町にふさわしい。伝統芸能の「狭野神舞（かんめ）」（十二月）や打植祭の「ベブがハホ」（二月十八日）なども見逃せない。

山口保明